

## BOB 会東北支部「歩こう会」活動報告

### 3月28日（土）巡検「四ツ谷用水本流を辿る―八幡町～北六番丁」

3月28日（土）「歩こう会」は、昨年に引き続き木村浩二さん（通称：ブラキムラさん）に講師をお願いして、伊達藩時代の城下町の痕跡を辿る第2弾を実施しました。木村さんは、NHK 番組「ブラタモリ仙台編」の案内役を務めた方で、過密スケジュールの中を、1年前から確保をさせていただき実施の運びとなりました。

今回のテーマは、伊達政宗が仙台に居城を構えるにあたって、最初の事業として手掛けた「四ツ谷用水」の本流・支流を辿るコースです。

この四ツ谷用水本流は、広瀬川の上流郷六四ツ谷堰（標高約66m）の取水口から大崎八幡宮前（標高約60m）を通り、本流吐口（標高約40m）の宮町東梅田川に至る約8kmです。その間に3本の支流、さらには枝流があって、用水総延長は40km以上とも言われ、仙台北下を隈なく張り巡らしています。更には、この用水から染み出た水が地下水となつて溜まり、城下は何処を掘っても綺麗な井戸水が出たと言われています。

今日はこの中から、大崎八幡宮を起点にして、今は暗渠となっている本流を辿り、へくり沢をクロスする暗渠の立体交差地点、第一支流の分岐点、本流の洗い場、本流用水が林宅寺で北六番丁の通り筋に合流する場所、等を巡ってから東北大学病院敷地内を通るルートを2時間半掛けてゆっくりと巡ります。

朝9時30分、大崎八幡宮一の鳥居前に18名が集まりました。今日は土曜日と言う事もあって、JTBからは現役社員4名の参加もあって若々しい雰囲気の中で開催出来ました。まずは、ブラキムラさんに用意していただいた江戸期の絵地図と解説書に基づいて説明を聞き、全体像が解ったところで、約2kmの用水本流を辿る旅がスタートしました。  
＜参加者＞：清水義春、高橋 翁、佐藤茂雄、高橋健治、渡辺仁美、阿部善幸、前田健二、板橋 博、畠山 廣、阿部友香里（JTB）、原田陽子（JTB）、佐々木美沙緒（JTB）、梅麻里子（JTB）、鹿野美枝子、千葉幸洋、中鉢孝男、佐藤恵美、永沼博之 以上18名



#### ＜大崎八幡宮三の鳥居・本殿＞

まずは、皆さん無事を祈願して来ました。

<講師の通称：ブラキムラさん>

木村浩二さんは、元仙台市職員で、NHK ブラタモリ仙台編に出演された方です。



<9時30分集合>

大崎八幡宮二の鳥居前で全体の説明を聞いてからスタート。



<伊達藩時代の絵地図を見ながら、①～⑭までの痕跡を巡る>





<大崎八幡宮一の鳥居前>

参道石段登り口に架かる太鼓橋下が四ツ谷用水本流。現在は暗渠になっているが、蓋の下を本流が流れている。今日は、この本流に沿って歩く事になる。

<一の鳥居前の四ツ谷用水説明書き>

右側の案内書には、土木学会選奨土木遺産「四ツ谷用水」とある。これは、ブラタモリ放映後に大評判となった為急遽、平成29年3月に仙台市が建てたものとブラキムラさん。



<一の鳥居前の標識>

この道標には「八幡町」・「作並街道」と書かれている。元々この八幡町は隣の龍寶寺の門前町と言われていた。

### <龍寶寺参道入口>

作並街道から本流に向かって行く



### <江戸町・坊主町周辺の本流>

住宅街の中を本流は暗渠となって流れている。その暗渠のある道を歩く事が出来る。今は、雑草も少ないが、夏には鬱蒼と茂るので歩く事が出来ないとの事。冬から春までがベストシーズンと言う。





<江戸町・坊主町の道標>

ここ辺は、左側には仙台城築城の為江戸から召し抱えられた大工衆の町、右側には城中で雑務に従事する坊主衆が住む町と言われている。

<石切町・覚性院丁・瀬田谷不動尊・石切橋界限>

八幡町から路地を北に入ると石切町、突き当りに小梨石材店、石切町北端を東に折れると石切橋で、へくり沢を越えて覚性院丁へ。覚性院丁は、覚性院と言う祈禱寺があった事に因む。この通りは、へくり沢を迂回する城下と山形を結ぶ要路だった。





<春日神社（元覚性院）界限>

四ツ谷用水がへくり沢を越えてクロスする暗渠の立体交差地点。  
へくり沢の源流は貝ヶ森辺りで、  
石切り橋から下流は深い谷となっていた。

<へくり沢暗渠>



箱型の「掛樋（かけび）」を使って、へくり沢を越えた。





### <第1支流分岐点>

3支流の内1本目の分岐点、南側に堀跡の長地割が覚性院丁まで延びる。

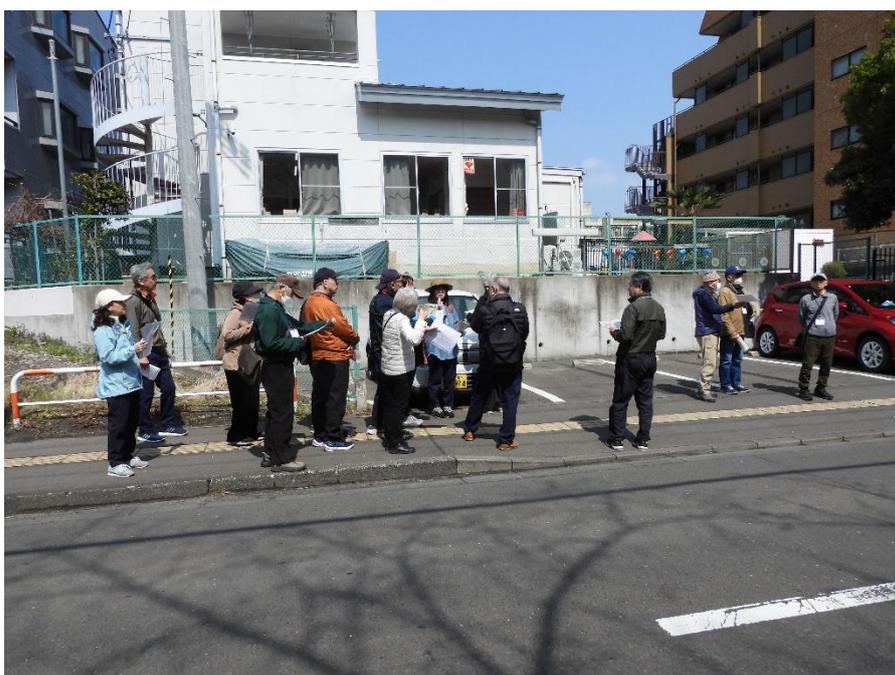
### <四ツ谷用水本流の洗い場>

用水北壁石積みに階段の痕跡。北側から鉤型に降りる石段の水洗い場。



### <本流／北六番丁>

段丘がいの斜面に沿って東流してきた用水本流は、北六番丁林宅寺の東で、北六番丁通りの筋に合流し、通り南側溝となって更に東流する。



### <北六番丁／新坂通り>

北四番丁から北六番丁の2街区分は明治期以降消滅。この辻から北は、藩政期のままで、北山通りまで続く。



### <狼坂（新坂通り）道標>

かつての北五番丁と新坂通りの辻辺りだ



### <北四番丁（支倉通り）>

現在は南丁字路だが、支倉通りは、北四から七番丁まで3街区分消滅した。

今回のコースはここで終了して、八幡町方面に少し戻って「臥龍梅」で昼食をとった。



<昼食会場・中華料理臥龍梅>

ここでも、キムラ講師から捕捉の説明を頂いた後、来年3月は「大手門再建」を祈願して「仙台城本丸」を案内していただく事にしました。皆様ご苦労様でした。

